



# ひばごんだより

第1号 (発行R3.3.1)

八銚自治振興区 総務企画部

TEL・FAX: (0824) 84-2363

eメール: yahoko.jichi@u-broad.jp

HP: <https://www.yahokojichi.com>

## 1. 「ひばごんだより」の発行にあたって

今年も早春をむかえ日差しもだんだんと柔らかくなってきましたが、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年来の世界的な新型コロナウイルス感染下にあって、私達の生活環境も大きく変化しましたが、引き続き感染予防対策を充分に行われお元気でお過ごしになられますようお祈り申し上げます。

さて八銚自治振興区では、ひばごんの故郷である「やほこ」にご縁のある皆様との絆を深め交流を促進していくために、この度より「ひばごんだより」を年に4回程度発行し、故郷のニュースや地域の様子などをお届けすることにしました。

この度が、初めての発行となり要領を得ない部分もあろうかと思いますが、皆様方のご意見等を頂戴しながら良いものに仕上げたいと考えております。

どうか、今後とも「八銚自治振興区」の取組み等にアドバイスを戴くとともに、ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



八銚自治振興区  
会長 片山 悟

## 2. 「八銚自治振興区」とは

八銚自治振興区は、平成23年4月に三坂・八銚落合（小鳥原、奥八鳥、梶谷）・高尾・油木の4自治会で設立した住民自治組織で、以下の事業を推進しています。

1. 庄原市八銚自治振興センターの指定管理者として当該施設の運営・管理
2. 八銚自治振興区地域振興計画を定め、これに基づく地域振興の推進
3. 庄原市教育委員会から委託された生涯学習事業の推進
4. その他、八銚地域の住民自治の推進

現在「庄原市」には、全部で22の自治振興区が設立され、各々活動しております。



### 沿革

- |         |  |
|---------|--|
| 明治22年   | 八銚村成立（町村制実施）   |
| 昭和29年3月 | 西城町となる（西城町と八銚村合併）  |
| 平成13年   | 八銚落合・高尾・油木・三坂の4自治振興区設立   |
| 平成17年3月 | 庄原市となる（旧庄原市、西城町、東城町、口和町、高野町、比和町、総領町で構成）                                |
| 平成23年4月 | 八銚自治振興区設立（旧八銚落合・高尾・油木・三坂自治振興区が各々自治会となって構成）                             |
| 平成23年4月 | 庄原市八銚自治振興センター開設<br>（旧小鳥原小学校が振興センターとなる）                                 |
| 平成29年   | ひろしま さとやま未来博2017「廃校リノベーション」で、<br>旧小鳥原小学校「現、庄原市八銚自治振興センター」の主に2階部分が改修される |



### 世帯・人口

206世帯 ・ 455人 （令和2年10月1日時点）

### 3. 庄原市八鉾自治振興センターの状況

#### (1) 小鳥原小学校のいま

いま小鳥原小学校は、1階部分が「庄原市八鉾自治振興センター」として、2階部分は「やほこ交流センターヒバゴンビレッジ」として運営されております。

自治振興センターは、地域の公民館的な役割も担っており生涯学習の拠点です。

2階の「交流センター」は、ひろしま さとやま未来博2017「廃校リノベーション」によって改修された部分ですが、地域内外の交流拠点として活用されています。

今回は、旧小鳥原小学校の現状の写真を掲載しますのでご覧ください。



昭和30年小鳥原小学校 新校舎落成時



現在の庄原市八鉾自治振興センター



建物前のウッドデッキ



C58機関車 動輪



1階：調理実習室



1階：会議室



1階：会議室



1階：多目的トイレ



1階：玄関（特産品コーナー）



2階：カラオケ室



2階：研修室



2階への階段



2階：図書室



2階：研修室



2階：談話室

#### (2) 旧国鉄グッズ展示

右の写真は、隣接する旧保育所の建物内へ展示している「旧国鉄時代に使用されていたグッズ類」です。

殆どのものを地元の方々から提供いただきました。



## 4. 湯崎広島県知事が、2回八鉾を訪れました

### (1) 1回目は、廃校リノベーションによる改修後施設のオープニングセレモニー



「廃校リノベーション」は、広島県の中山間地域を舞台に開幕されたイベント『ひろしま さとやま未来博2017』（2017年3月～11月に、自然豊かな自然を感じることができる里山の魅力を再発見し体感するイベントとして実地）のシンボルプロジェクトとして行われ、このプロジェクトに、庄原市八鉾自治振興センター（旧小鳥原小学校）が選ばれ改修されました。

建築後62年目を迎える旧小鳥原小学校の、昭和の雰囲気漂う木造建築を活かした新たな価値の創出による使用用途の拡大を目的に実施されました。

改修工事は、2021年開催東京五輪の新国立競技場を設計した世界的な建築家である東京大学教授“隈 研吾氏”の監修で行われ、旧小学校校舎が多くの人が集う拠点施設へよみがえりました。



東京大学教授 隈 研吾氏

平成29年11月23日に、この廃校リノベーションによる改修工事の竣工イベントが行われ、湯崎広島県知事が八鉾を訪問されました。



### (2) 2回目は、ローカル線の魅力を生かす取組みに関する「備後落合駅」

令和2年10月22日に、湯崎広島県知事と丸山島根県知事が木次線油木駅から備後落合駅を經由して芸備線小奴可駅までの鉄道を共にされ、ローカル線の魅力を生かした観光連携や利活用策などを話し合われました。

両知事が備後落合駅へ到着の際は、当振興区の片山会長が出迎え、当振興区内の「油木駅、備後落合駅、道後山駅」で日頃から地元の方々が地道に取り組まれている活動と、当振興区が廃校リノベーション後の交流施設へ旧国鉄グッズ類を展示している活動について報告しました。



湯崎知事からは、廃校リノベーション後の交流活動に関し「一緒に頑張りましょう」とのお言葉をいただきました。

## 5. 令和2～3年度の主要事業ご紹介

新型コロナウイルス感染禍、様々な活動が停滞気味となっておりますが、八鉾自治振興区では中長期的な視点で地域振興を図っていくということで、「地域情報の発信」と「地域外との交流促進」に取り組んでおります。そこで、この度は令和2年度から令和3年度にかけて取り組んでいる／取り組む事業を皆様にご紹介させていただきます。今後とも皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### (1) 令和2年度に取り組んできたこと（掲示物や展示品は、開館日はいつでもご覧いただけます）

- ①「ホームページのリニューアル」…様々な八鉾の宝を掲載しました。インターネットでご覧ください。
- ②「ひばごん50周年資料（年表）の掲示」…八鉾自治振興センター1階の廊下に掲示しました。
- ③「八鉾の歴史資料（年表）の掲示」…八鉾自治振興センター1階の廊下に掲示しました。
- ④「旧国鉄時代のグッズ類や写真の展示」…八鉾自治振興センター別棟に展示しました。
- ⑤「特産品コーナー」…八鉾自治振興センター玄関にスペースを確保し設けました。

### (2) 令和3年度から本格的に取り組む事業

将来、皆様にもご参加いただける「交流事業」を目指した以下3事業を立上げることとしております。

- ①「しいたけ栽培講座」…地域内外の人が農業体験できるような事業にしていく予定です。
- ②「ガーデニング教室」…八鉾自治振興センター前庭等に花を植栽し、オープンガーデンを目指します。
- ③「パークゴルフ&ウォーキング教室」…パークゴルフはクロカンパークの常設コース（芝生）をホームコースとします。秋には地域外の人にも呼びかけ大会を行う予定です。

## 6. 歴史シリーズ（「よみうり伝言板」より転載）

### （1）八銚村の沿革（新山勝男）

- 明治22年（1889）町村制実施により、小鳥原、高尾、三坂、油木が合併して八銚村となり、役場を小鳥原保賀谷に置く。
- 昭和28年（1953）油木 三井野の一部を分離して島根県仁多郡八川村（現 横田町）へ編入する。
- 昭和29年（1954）町村合併により西城 八銚村合併して西城町と称する。

### （2）雲伯往来と番所

西城は古くから、出雲路、伯耆路、備中路の分岐点であった。広島藩政時代 町内に置かれた国境 番所は、①伯中往来の三坂上市場（多里越えの宿場）（現在 溝口致哲家）と、②出雲往来は油木上組「花木」に置かれていた。当家は明治18年火災（松尾家）（名誉市民 宮田武義の実家）③福代は現在二本松（東城町）が備中時の 国境（現在 遠藤家） 頼杏坪、若山牧水も泊まった。（碑もある）

### （3）三井野原今昔（松上 清）

古来 三井野原は西城川のみなもととして「稚児ヶ池（現在 三井野のトンネルの上）」がある。最近では西日本最大の「夏採りキャベツ」の産地として、又「誰もがすべれるスキー場」として広く名をなした。開拓農家が入植したのは昭和22年からで、島根県 香川県 広島県から30戸の農家が入植（平均年齢25才）の若者達によって苦勞の末開拓された。

スキー場の造成と同時に木次線三井野原仮乗降場を開設、昭和23年「国鉄 三井野原駅」として発展し県道も通ることになった。

三井野原の開拓地の大部分は広島県（当時 八銚村）に所属していた。但し所有者は島根県「絲原家」のものであった。県境が余り問題にされず計画が進められたが、入植して実生活していく中で切実な問題として住民の純粋な生活上の意思から県境を変更し、島根県に編入する運動が進められてきた。

### （4）県境変更

#### ① 村及び県に至る距離的關係

八川村役場まで9km 徒歩にしても半日で用ができる。八銚村は役場まで16km 徒歩では1日で用ができない。島根県庁へは汽車で1日で用を足し、広島県庁へは1泊2日を要する。

#### ② 子弟の教育關係

八川村 小中学校の通学には支障なく、八銚村は小学校は油木に中学校は小鳥原保賀谷へと困難。

#### ③ 日常生活の交渉關係

日用品の購入は八川村 横田町 又は松江へ1日で用をなし、八銚村は西城 庄原 十日市 三次と1泊2日を要する。

#### ④ 八川村に対する情義關係

事業開始以来 八川村の開拓団に対する精神的、物資的、道義的援助は多大であった。

（昭和28年12月1日付で決定）

また、電源開発で山県郡八幡村（現 芸北町）への編入問題で県境変更の必要があり、それとの交換条件で了解がついた。

## 7. クラス会や交流施設見学会での利用

廃校リノベーション後に2つのクラス会や見学会が行われました。1つは平成30年10月21日の「昭和36年小鳥原小学校卒業生」の皆さんのクラス会。2つ目は平成30年10月22日の「昭和42年八銚中学校卒業生」の皆さんの見学会です。出席された皆さん、懐かしい昔の思い出話に花が咲き楽しかったようです。クラス会・見学会に限らず、お気軽に施設を

ご利用ください。



S36年小鳥原小学校卒業生の皆さん



S42年八銚中学校卒業生の皆さん



懐かしの「八銚中学校」

ご利用案内の詳細は、  
「0824-84-2363」へお電話いただくか、  
八銚自治振興区の「公式ホームページ」  
「<https://www.yahokojichi.com>」をご覧ください。